

# 黒羽のお茶

旧黒羽町の須賀川地区にはかまぼこ型の茶畑が広がっています。この地区のお茶は香り、味ともにすぐれ、まろやかで、後味がさわやかであるのが特徴です。

由来については室町時代末期に、茨城県佐貫の僧が京都から持ち帰った茶を栽培しそれが普及していったという説や、黒羽に今もある雲巖寺の僧が栽培を始め、それが次第に普及していったという説などがあります。今回は須賀川ふるさとづくり協議会会長で、ご自身も茶の生産者である秋笹さんに、須賀川地区で栽培されているお茶『黒羽茶』について教えていただきました。



須賀川ふるさとづくり協議会  
会長 秋笹 幸二 さん

## 黒羽茶の旬はいつごろですか？

須賀川では、ほかの生産地より少し遅めの5月中旬に茶摘みが始まり、そこからお茶の等級別に時期をずらし、収穫し加工するので販売まで時間がかります。加工自体はすぐにでもできるので、荒茶という乾燥させた状態のものを一旦置いておき、その後製茶することでお茶の状態がよくなります。

## お茶農家はどのくらいあるのですか？

概算になりますが、生産者という括りで数えて約40軒ほどで、商用に生産しているところに限定すればその半分の20軒ほどだと思っています。15年ほど前にはそれぞれ倍近くあったのですが、高齢化や過疎化の影響を受けて、数は年々減っているのが現状です。

## お茶の栽培で大変なことは？

須賀川は新潟県村上市と茨城県久慈郡大子町を結んだライン上にある茶の産地の北限になります。そのため寒さにあまり強くないお茶にとつて須賀川の冬季は少しきびしい環境になります。さらに、5月の暖かくなつて寒さも忘れたような頃に『遅霜』がおこる時もあります。遅霜とは読

んで字の如く、気温が暖かくなつてから降りる霜のことです。これが起きてしまうと新芽がダメになり、一番茶が取れなくなつてしまいます。

また、東日本大震災の影響も大きく受けました。私たちの協議会主催で平成22年に『新茶まつり』を行いました。その年は大好評で来年に向けての意欲や計画もありましたが、その後に震災があり、放射線量の影響でお茶が出荷できなくなつてしまいました。そのためその後3年間は新茶まつりの開催を見送らなければならなくなりました。



## 新茶祭りについて教えてください。

前述したとおり、私たち『須賀川ふるさとづくり協議会』が主催で行っている催しで、平成22年に第1回をスタートして、震災で開催できなかった期間が3年あるため、今年の開催で3回目になります。前回の祭りは5件の生産者が出店者として参加したのですが、どこもほとんど完売状態の大盛況でした。じつは平成25年の時点で、放射線量の基準などの条件についてはクリアしていたのですが、受け入れてもらえるのかという不安があり、協議の結果、中止ということになりました。その経緯もあり、26年の盛況ぶりはとてもうれしいものでした。

今年も各生産者が丹精込めて仕上げたお茶を持ち寄り、新茶まつりを開催する予定です。会場は『ドラマ』と姉ちゃん』のロケ地にも使用された旧須賀川小学校です。皆様のご参加をお待ちしております。